



TITLE:

完顔世祖の崇天に就いて

AUTHOR(S):

小川, 裕人

CITATION:

小川, 裕人. 完顔世祖の崇天に就いて. 東洋史研究 1938, 3(6): 556-556

ISSUE DATE:

1938-09-28

URL:

<https://doi.org/10.14989/147084>

RIGHT:

第五節の初め三字は fu-un-[čé] にて漢譯の「遺」なり。滿洲語にて「餘」を funčén と云ふ。同

〔安馬彌一郎〕

完顏世祖の崇天に就いて

小川 裕人

金史禮志南北郊のところに、

金之郊祀本於其俗、有拜天之禮、其後太宗卽位、乃告祀天地、蓋設位而祭也、天德以後始有南北郊之制、

とあつて金の告祀天地の儀式は太宗を経て海陵時代に至つて完成された。然しその拜天の禮は建國後に至つて始つたものではなく、固有の風俗に基いたのである。金史には崇天に關する記事は世祖の時代から見え、世紀には今の敦化地方の諸部長烏春が世祖に挑戦して師を出した時の記事に、

大雨累晝夜、氷漸覆地、烏春不能進、旣而悔曰、此天也、乃引兵去、

とあり、又世祖が破多吐水の決戰に於いて、桓轅散達兄弟を敗走せしめた時の言として、

今日之捷、非天不能及此云々

一語なるべし。以上氣付きしままに列記せり。

とある。更に桓轅傳(卷六七)にもこの時のことを記して、

以戰勝告於天地、頒所獲於將士、各以功爲差、とある。この後の征服戰に於いてもこの崇天思想が利用されたものゝ如く、この亂の直後に起つた盃乃(完顏氏の部と隣接した諸部長)討伐の記事(世紀)にもこのことが認められる。

完顏氏も景祖時代には衆に推されて諸部長となり(石顯傳)未だその世襲權は確立して居なかつた。然るに世祖の襲位は父皇祖の意志によつて決定された(撒改傳)。世祖の初頃に起つた桓轅兄弟の大亂は、蓋し世祖の承襲に對する反抗運動に基くもので完顏氏の世襲主權はこの動亂を経て確立された。金史にこの當時より崇天に關する記事が認められるのは、完顏氏の權力の永續化とその發展に、崇天思想の與つて力のあつたことを思はせるに足るであらう。而して當時の諸部はその成立の初より異種族を含む地緣的な團體なることは拙稿「生女真勃興過程に關する一考察」に於いて述べた如くである。